



## 「論う」の回復を

学校長 飯山 等

親鸞聖人から二百年あまり後に蓮如という方がおられます。この方は「講」という人々のあり方をとても大事になさいました。講義の[講]、講和条約の「講」です。言偏に「組み合わせる」という意味の旁をもちます。発言して心を通じ合わせるという意味を表している字です。漢字辞書は「①仲良くする。和解する。②説く。③論議する。……」という順で字義を載せています(新漢語林第2版)。力で押しつけたり、押しつけられたり、大きな声で上から被せたり、黙らせられたりするのではなく、「平座」という対等・平等な関係を基本として場が形成される。上下や強弱という垂直のあり方ではなく、水平な立場でお互いを認め合っ

たものを言い合える関係性を大切にされました。そしてその集まりに「談合しましょう」と声をかけておられます。談合(談じ合う)ということばは、現代ではごく限られた場面で否定的な意味で使われることがほとんどですが、ことばのもともとの意味は談という字が旁に火を重ねてあるように、ことばが盛んに交わり合われる状態を表現しています。

漢字には「音読み」と「訓読み」がありますね。おおざっぱに言うと、「音読み」は中国から入ってきた発音をもとにするもの、「訓読み」はもともと日本にあった言葉に漢字をあてた読み方です。例えば「節目」は音読みでは「セツモク」、訓読みでは「ふしめ」と言います。動詞でも、「食」を音読みすれば「シヨクする」、訓読みでは「くう」「たべる」、「会」は「カイする」、「あう」となります。「音読み」「訓読み」の両方がある字もあれば、片方の読みしかない漢字もあります。先の「音読み」「訓読み」の別を踏まえたとき、「訓読み」を有する漢字は、まだ文字を持たなかった日本社会で発語・流通していた音声言語に、同内容を意味する漢字を当てたもの。「音読み」しかない漢字は、その漢字が表す意味内容を適切に表現することばがなかった状態に、新たに入ってきた漢字によって明示・名指されることになった。そのような歴史のいきさつを表しているのではないのでしょうか。言語学的な根拠は希薄なまま素人の推量に過ぎませんが……。言偏の漢字で考えてみても、「語」とか「話」は、「ゴ」「かたる」、「ワ」「はなす」の両方を有し、「談」「講」は「ダン」「コウ」の音読みしか伝えておらず、動詞の場合は「する」

の送り仮名をつけて「ダンする」「コウする」です。それは「談」「講」が、「かたる」「はなす」の「語」「話」に比べて、素朴な日常生活のレベルからすればやや距離のある、あらたまった固い行為、その印象ゆえに「音読み」しか伝わっていないのではないのでしょうか。

こんな面倒なことを書き連ねているのは、「談」「講」と同じように「ロンする」としか言わない「論」の字について「訓読み」があると知ったからです(聖徳太子の『十七条憲法』の第1条と第17条)。「論ずる」とは、「物事の善悪・是非について話し合う。問題を整理して、すじみちをたてて話す」という言葉です。物事の善悪・是非について話し合う。論理立てて述べる。そのことは日本古来より生活の中で、いわば生活を構成・構築する現場で使用されていた。それ故に「訓読み」が存在している。では、「論う」は何と読むのでしょうか……。答えは「あげつらう」です。若い皆さんには馴染みが薄い言葉かもしれませんが。日本語としてもやや古風な表現ではあります。しかし、現在の国語辞典にも「あげつらう」の語は載っており、「論う」と漢字表記されています。

「論う」は「あげつらう」と読む。このように知ったとき、少なからず混乱し動揺しました。私には、「あげつらう」という日本語は、非難の意味を込めて枝葉末節な事柄をのべたてる、けちをつける、という行為を表している語だったからです。しかし、辞書で調べると(日本語大辞典)、「あげつらう」には、本来はマイナスなイメージはなく、「あげ」は「挙げ」、「つらう」は動作や状態が強く長くつづくことを表しているとあります。心を開いて、大切なこととして論じ合うという、そのことが、どうして否定的な意味で使用される言葉に変質してしまったのでしょうか。私はそこに、私の中にもある《私性》が深く関わっているように思われます。

論じる(=あげつらう)場が、私を開いてわかり合おうとするよりは、私に閉じた難じ合うという場として積み重なる、そのことによって「論う」ということばは、いつしかボールを激しくぶつけ合うドッジボールの関係をのみ意味するようになってしまった。その変容の必然が、私の中にも感じられて悄然となりました。人間の《私性》の根深さに目をこらしつつ、それでもなお、心と心との、人と人との、国と国との、ドッジボールではなくキャッチボールをする、思いや考えをぶつけあう私の達(=複数性)ではなく、和らかに受けとめあう《われら》になりたいと思います。